

会員をご招待いただきました。

当日、大きなクリスマスツリーが飾られた会場では、サンタクロースやトナカイに扮したボランティアに出迎えられ、一瞬にしてクリスマスの雰囲気・・・みんなで一緒に写真を撮ったり、おしゃべりしながら、開演時間までも楽しませていただきました。

演目は、劇団四季による『王様の耳はロバの耳』で、ミュージカル仕立ての舞台は色とりどりに鮮やかで、華やかな歌とダンスの楽しさと、わかりやすい物語に会場の1000名の観客も息をのんで見入ったり、大歓声をあげたりと魅了されていました。2時間の公演は大盛況で、楽しい時間を過ごすことができました。



厚生労働大臣表彰の受賞について

理事長 小泉 いと子

まずは、皆さまに日頃からのご支援ご協力に心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、この度皆様のお力添えのおかげをもちまして、12月7日(金)に厚生労働大臣表彰を受賞いたしました。午後から皇居内の長和殿の入り口より北だまりの間へと進み天皇、皇后両陛下に拝謁しました。両陛下は私たちの座席の前にある壇上に昇られ、静かに優しく我々一同に視線を向けられておられました。そのお二人の姿を直に拝謁することの喜びと感動は、自然に涙が浮かぶほどでした。天皇陛下からねぎらいとお褒めの言葉を頂戴し、貴重な時間を過ごさせていただきました。



この度の賞は会員の皆さんや保護者の皆様、そして職員の皆さんを代表して自分が受賞出来たものであると改めて感謝とともにこの喜びを胸に深く刻んでおります。

私が自分の子どもの障がいを初めて知った時、皆様も同様だったと思いますが、驚きが、悲しみが、そして自分自身を責めながら悩み苦しみました。このぽっかりと落ち込んだ深い暗闇から抜け出すことは、もう出来ないのではないかという絶望感の中でしばらくの期間を過ごしました。

現在、この深い暗闇から外に飛び出すことが出来たのは、愛しいわが子を何とかしたいという強い母親の気持ち、そして家族の応援、そして何よりも周囲の皆様からの温かい思いやりによってでした。当然、障がいに対して無理解な言葉や仕打ちを受け、わが子を抱きしめて泣いたことも数多くありました。でも、この方々は私やわが子に悪意があったのではなく、何よりも障がいというものに皆さんが無知だったからだと思っております。

昭和から平成へと時代は移り、わが子も今年10月に35歳になりました。この時間の中で、彼は幼稚園に通い、養護学校で12年間を過ごし、そして現在の生活介護施設へと通所するようになりました。子どもだけでなく私自身も多くの方々と知り合いました。学校の先生方、施設の職員の皆さん、保護者の皆様方にも、家族同様に助け合いながら仲良くお付き合いいただき、そして病院の先生や多くの行政関係の方、地域の皆さんにも、助けていただいたり、教えていただいたりしました。教育大附属養護学校に入学したことで、大阪市手をつなぐ育成会に入会し、いろいろな経験と共に現在もこの子の母としてベストと思える方向へ進もうと努力しています。

そんな中、ふと私も自分が居なくなった後の、彼の将来を案じ不安に感じることもあります。そして、今この時にも私たちが経験したような深い暗闇で孤独に悩み続けるご本人や保護者の方も数多くいらっしゃることでしょ。

全国手をつなぐ育成会は、わが子の将来を案じ3人の知的に障がいのある子どもを持つお母さんたちが、学校の先生、お医者さん、地域の支援して下さる方々と手をつなぎあうことからスタートしました。私が理事長を務めさせていただいている大阪市育成会でも、ご本人やご家族の悩みや不安を少しでも和らげたり無くすことに尽力できるよう、また、社会の皆さんが障がいについて理解を深め、共生社会を推し進めてい